



2023年7月31日(月)  
ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2022 高校生実行委員会  
ユース提言セクション 作成

## ジェンダー教育に関する提言

### 目次

目次.....	1
前文.....	2
提言.....	3
授業・ワークショップの内容.....	4
1. セクシュアリティ、SOGI について学ぶ.....	4
2. 一人ひとりが自分のセクシュアリティについて考える機会を設ける（ワークショップ）.....	5
3. 社会の現状を知る.....	7
実施体制について.....	10
参考.....	12

# 前文

私たちは、ワン・ワールド・フェスティバル for Youth という、高校生のための国際協力／SDGs イベントの高校生実行委員会内に設置されているユース提言セクションです。<sup>1</sup>

近年、LGBTQ+という言葉が話題にあがるが増えました。しかし、LGBTQ+の内容が広く認知されているとは言い難く、セクシュアリティの重要な考え方である SOGI という言葉は日本で広まっていません。また、現在でも性的マイノリティの方々への偏見・差別や、社会構造による課題が残っています。例えば、SOGI ハラ、福利厚生の不適用、男女を前提とした制服や校則、同性婚が認められていないことなどが挙げられます。私たちのなかにも、まさに自分が通っていた学校で、性的マイノリティの生徒が同級生に中傷されていたという経験を持つ人もいます。このような、性的マイノリティへの差別・偏見が残る現状に違和感や憤りを覚えたことがきっかけとなり、この提言を作成しました。

しかし、私たちがこれらを問題視するのは、性的マイノリティの方々にとって不平等だからという理由だけではありません。そもそも、“セクシュアリティで人が差別されたり、不利な状況に置かれたりすることはおかしいことである”と私たちは考えます。これは、“人種で人が差別されることがおかしいと考える”ことと、なんら変わりはありません。私たちは、セクシュアリティだけでなく、さまざまな面での多様性を受け入れている社会を理想としています。各々のセクシュアリティに対してどう思うかではなく、そういった人もいることを当然であることを知るための教育や環境が必要だと考えています。あらゆる人びとが根本的に多様性を受け入れるようになることで、現在も存在している性的マイノリティの方々への差別・偏見や、社会的構造の課題が解決され、性的マイノリティの方々自分の性を隠すこと、萎縮することなく生きることができると考えます。性的マイノリティの方々に限らず、誰もが自分らしく生きることができると考え、私たちが思い描く理想の社会です。

私たちは、社会構造の中の課題や、性的マイノリティの方々への差別、偏見が残っているのは、いわゆる「マジョリティ」である人々が LGBTQ+ や SOGI についてよく知らないために、性的マイノリティの方々を「異質だ」と感じているからではないか、と考えています。そして多様な性があるって当たり前だと受け入れるようになるためには、まずは知ることから始めるべきだと考えています。しかし、現在教育振興基本計画には、性的マイノリティという言葉は1語しかありません。また、宝塚大学教授の日高庸晴氏の調査によると、実際に LGBTQ+ などの性的マイノリティについて教えたことがある教師は 15% に過ぎません。<sup>2</sup>

---

<sup>1</sup> <https://owf-youth.com/index.htm>

<sup>2</sup> <https://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/400/450141.html>

そこで、私たちは次世代を担う若者に対して、教育の場である学校で、正しい知識と多様性を受け入れる価値観を教える必要があると考えました。学校は、将来社会に出る多くの学生が通う場です。学校で SOGI や LGBTQ+ についての知識や価値観を教えることができれば、将来的に、多様性を受け入れる価値観は普及しやすくなると思います。また、家庭内では親の影響が強いこと、親世代の年代の人には性的マイノリティは異常だという考えを持っている方もいることから、家庭と切り離された学校で教育を進める必要があります。また、若い年齢の人々の価値観は柔軟です。もし LGBTQ+ や SOGI について知らなかったとしても、大きな先入観を持たずに受け入れやすいと考えています。さらに、性的マイノリティの方々が自分のセクシュアリティを自覚するのは学齢期が多いため、学校で自身のセクシュアリティについて正しく認識したり、さまざまなセクシュアリティが存在することを知ったりすることは、性的マイノリティの子どもたちにとっても必要です。

これらを踏まえて、私たちは、学生のうちに多様性を当然だと受け入れる価値観を醸成するために、学校における LGBTQ+ や SOGI についての教育の機会の設置に向け、以下の3つのことを提言します。また、教育の具体的な内容や実施体制についても提言します。

## 提言

1. 「マイノリティの子供だけでなく「周りの子どもや大人」にも働きかけ、ジェンダーやセクシュアリティについての知識や多様性を受容する価値観を教育によって普及させることを目指す」という記述を、4期の教育振興基本計画に付随する計画に入れる。
2. 以下の授業・ワークショップ、実施体制の内容を文科省から各教育機関への通知として送る。
3. 生徒指導提要に、ジェンダーやセクシュアリティについての教育を実施するという前提で、以下の実施体制の注意点の記述を加える。

# 授業・ワークショップの内容

## 1. セクシュアリティ、SOGIについて学ぶ

**セクシュアリティ(=人間の性) :**

セクシュアリティは生涯を通じて人間であることの中心的側面をなし、セックス（生物学的性別）、性自認とジェンダー役割、性的指向、エロティシズム、快楽、親密さ、生殖がそこに含まれる。セクシュアリティは、思考、想像、欲望、信念、態度、価値観、行動、実践、役割、および関係性を通じて経験され、表現されるものである（WHO 2000）<sup>3</sup>

**私たちの説明案（授業・ワークショップのために、より分かりやすくしたもの）**

セクシュアリティは、死ぬまでの一生を通して人間であることのものであり、生まれたときの体の性別、自分が考える自分の性別、好きになる相手の性別などを含んでいる。

これは色々な考え方や想像や欲望や信じていること、態度、ものの見方、行動、取り組み、役割など、色んなものを経験することで表せるものである。

セクシュアリティには、一般的に4つの要素があると言われている。

### ①「生まれた時に割り当てられた性」

からだの性別の特徴から戸籍に登録された性。「身体的性」とも呼ばれる。

### ②「自分でとらえている性」

自分で認識している性。「性自認」とも呼ばれる。

### ③「好きになる相手の性」

自分が好きになる性。「性的指向」とも呼ばれる。

### ④「表現したい性」

どのような性別を表現したいか。

またセクシュアリティとして有名なのが、「**LGBTQ**」である。

**Lesbian:** レズビアン(女性の同性愛者)

**Gay:** ゲイ(男性の同性愛者)

---

<sup>3</sup> 風間孝・他（2018）『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』法律文化社

**Bisexual:**バイセクシュアル(両性愛者)

**Transgender:**トランスジェンダー(自己の身体の性別と自認する性別に違和感のある人)

**Questioning(Queer):**クエスチョニング(クィア)(自身の性自認・性指向が決まっていない人)

**SOGI (ソジ) :**

**S**exual **O**rientation (性的指向) と **G**ender **I**dentify (性自認)。

少数派も多数派も含めたすべての人が持つ性的指向・性自認を表す言葉。

性的マイノリティ等の問題を特定の人々にのみ配慮が必要な課題として捉えるのではなく、少数派も多数派もすべての人が対等・平等、人権の尊重に根ざした課題として捉えるべきであるという、国際的潮流に則った大きな考え方。<sup>45</sup>

## 2. 一人ひとりが自分のセクシュアリティについて考える機会を設ける (ワークショップ)

自らのセクシュアリティを考える時には、まず、世の中には多様な性があるということを知ることが大切である。一人ひとりのセクシュアリティは異なっており、セクシュアリティの決定権は自己が持っているものである。そのため、個人のセクシュアリティを当人以外がラベリング (LGBTQ などの枠に沿ってラベルをつける考え方) してはいけないということにも注意が必要である。

セクシュアリティは四つの要素 (指標) の中で、グラデーションで存在している。

マジョリティ、マイノリティで区別するのではなく、個々のセクシュアリティが対等な関係で、互いに尊重される環境にあるべきだという考え方が重要だ。

※用語解説

マジョリティ：多数派、マイノリティ：少数派

---

<sup>4</sup> <https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/33/>

<sup>5</sup> <https://www.jtuc-rengo.or.jp/activity/gender/lgbtsogi/>

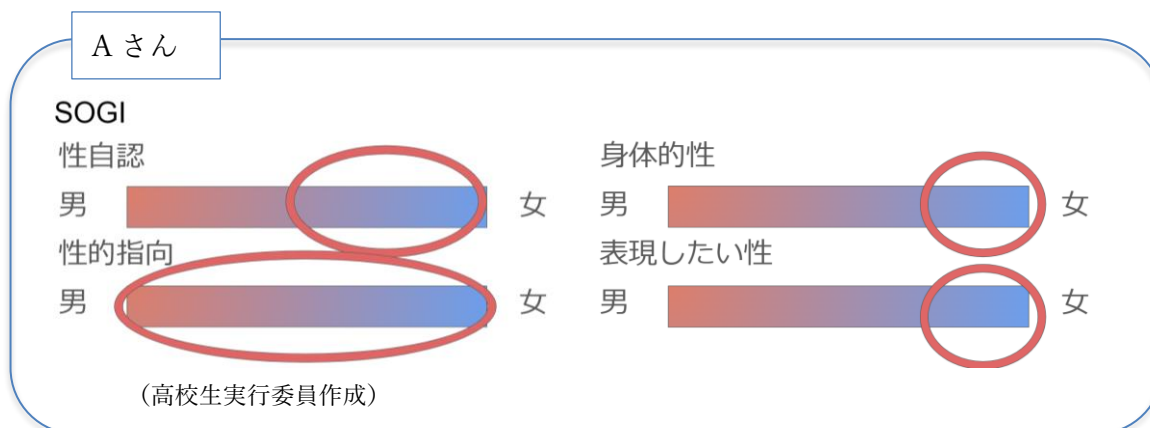
## ワークショップの目的

- ・世の中には多様なセクシュアリティがあることを知ってもらうこと。
- ・セクシュアリティをマイノリティ、マジョリティと区切って考えるのではなく、「それぞれのセクシュアリティは異なっており、互いに対等である」ということに気づいてもらうこと。
- ・自らのセクシュアリティについて、例としてあげる人のセクシュアリティと比べながら考えることで、それぞれが異なっており、それが当たり前だという感覚を身につけてもらうこと。

## ワークショップ案

①

「Aさんの性自認は女性とどちらでもない性のあいだで変わります。性的指向は全ての性に向いていて、身体的性は女性、表現したい性は女性です。」



「Bさんの性自認は男性、女性のどちらでもなく、性的指向は男性にむいています。身体的性は男性で、表現したい性はすべての性です。」



このように、セクシュアリティの具体的な例を複数挙げる。

②

Aさん、Bさんなどのセクシュアリティの例をふまえて、自分のセクシュアリティについて考える、自分と向き合うワークをする。

「あなたの性自認、性的指向、身体的性、表現したい性はどのようになっていると思いますか？」と生徒に問いかけ、丸を書き込んでもらう。

### SOGI

性自認

男 

女

身体的性

男 

女

性的指向

男 

女

表現したい性

男 

女

(高校生実行委員作成)

参考：平成 28 年度厚生労働化学研究補助金エイズ対策政策研究事業 研究代表者 日高 庸晴氏(宝塚大学 看護学部)

## 3. 社会の現状を知る

日本社会がどのような課題を抱え、どのように変化しようとしているかについて知ってもらい、考えてもらう。

### 社会の構造的課題

以下に、課題の例を挙げた。

法律

- ・同性婚は日本では認められていないが、世界では 33 国が同性婚を認めている。<sup>6</sup>

学校

---

<sup>6</sup> [世界の同性婚 | EMA 日本 \(emajapan.org\)](http://emajapan.org)

- ・女性用、男性用のトイレしか設置されていない。
- ・宿泊行事での部屋割りや入浴の区分けが男女のみである。
- ・校則が男女で区別されており、制服も女子用と男子用のみである。

#### 職場

- ・家族手当、結婚休暇、育児休暇などの福利厚生が男女夫婦にのみ適用される。
- ・男性女性、異性愛者を前提とした就活
- ・Sexual orientation and gender identity（性的指向及び性自認）についてのハラスメント、いわゆる SOGI ハラ。

#### SOGI ハラ：

「好きになる人の性別（性的指向：Sexual Orientation）や自分がどの性別かという認識（性自認：Gender Identity）に関連して、差別的な言動や嘲笑、いじめや暴力などの精神的・肉体的な嫌がらせを受けること。また、望まない性別での学校生活・職場での強制異動、採用拒否や解雇など、差別を受けて社会生活上の不利益を被ること。それらの悲惨なハラスメント・出来事全般を表す言葉。<sup>7</sup>

SOGI ハラの具体例を紹介する。

#### 1. 差別的な言動や嘲笑、差別的な呼称

「ホモって気持ち悪い」「レズなんて死ねばいい」「オトコオンナって変だよ」といった、その人の性を馬鹿にしたり否定したりする発言をすること。

#### 2. いじめ・暴力・無視

「俺らもゲイだと思われたらキモくね？無視しようぜ、無視！」といったように、人の性を馬鹿にしたり否定したりし、さらには物理的な暴力や精神的にダメージを与えるような行動や発言をすること。

（※尚、いじめとは基本的に、加害者の意思には関係なく、被害者本人の感じ方がどうであるかで判別される。個人によるものか集団によるものかどうかはいじめかどうかを判断するのに関係ない。）

---

<sup>7</sup> <http://sogihara.com/>



### 3. 望まない性別での生活の強要

「戸籍は女性なんだから、セーラー服で登校しなさい」といったような、その人の性自認を否定し、異なる性を強要する発言をすること。

### 4. 不当な異動や解雇、不当な入学拒否や転校強制

「男なのにこのまま化粧して出社するなら、異動だぞ。」といったような、著しく不合理な発言及びその事務的処理等をする事。

### 5. 誰かの SOGI について許可なく公表すること（アウトティング）

「あの子、レズって知ってた？」といったように、他人の性を本人の許可なく他人に公表するなどの行為をすること。

## 社会の取り組み

### 法律

・パートナーシップ制度は自治体で広がりを見せており、日本では少なくとも 259 の自治体で認められている。<sup>8</sup>ただし、法律婚と同等の法律上の効果は得られない。

### 学校

・性転換が学生証に反映される学校もある。  
・制服がすべて統一されたデザインになったり、誰でも全ての種類から選ぶことができるようになったりした学校もある。

### 職場

・異性同士の法律婚以外にも福利制度を適用する企業もある。  
・パワハラ防止法が改正され、企業に SOGI ハラも含めたパワハラ対策を義務付けた。

---

<sup>8</sup> [日本のパートナーシップ制度 | 結婚の自由をすべての人に - Marriage for All Japan](#)

# 実施体制について

この授業、ワークショップ内容を実施するにあたって、以下は必須項目となる。

1. 生徒も教員も講師も性差別や固定観念に基づいた発言はしない。
  - ・「女性らしさ」「男性らしさ」に関する発言はしない。また、父親や母親がいることを前提に話を進めたりしない。（「保護者」という言葉に変換するなど）
  - ・生物学的に男性と女性という二つの性別に分けなければならない状況もあるということの説明は必要であるが、社会的な性であるジェンダーの話をする中で男性と女性の二つの性を前提としない。
  - ・授業の内容や講師（教員）、生徒の発言の言い回しによってはワークショップに参加している人たちの中で傷ついてしまう人がいるため、大きな配慮が必要である。
2. ワークショップは学校の教員ではなく、外部の人に行ってもらおう。学校の教員はサポートにまわることが望ましい。
  - ・教員と生徒には権力関係があり、それがこの授業、ワークショップに反映される可能性がある。生徒に圧力をかけて意見を述べさせたり、高圧的な態度をとったりする（無意識のうちも含む）ことがないように、外部のLGBTQ+やSOGIの専門家が実施することが望ましい。
3. 教員はワークショップ実施の前に研修に参加する。
  - ・教員の知識不足は、生徒の間違った認識や差別的な感情をうむ可能性がある。また、生徒を傷つける可能性があるため、授業のサポートをする際には事前に研修に参加することが必要である。
4. 教員は参加生徒の意見を否定しない。
  - ・前述したとおり、教員と生徒の間には権力関係がある。生徒が意見を否定されて傷ついたり、自由に意見を述べられなくなったりすること避けるため、教員は生徒の意見を否定しないことが必要である。ただし、誰かを差別するような発言は禁止するこ

とが最重要である。差別発言が行われた場合は、咄嗟の自己制止、その発言を受けた者の対応(フォロー)をどうするのかを必ず考えておくこと。

5. 生徒の意見や考えに対して、評価をしない。成績に含まない。

・「この考え方のほうが素晴らしい」というように生徒の意見に優劣をつけることは生徒が自由に考えることを阻害する。また、その意見が誰かを傷つけるものでなければ、この授業内では意見の優劣はなく、それは他人が決めることでもない。

6. 生徒の参加は任意によるもので、強制されてはならない。

・セクシュアリティはプライベートなものであり、パブリックな場である授業やワークショップに強制的に参加させることは生徒に圧力や不安を感じさせることに繋がるため、生徒の参加は強制されてはならない。

7. 自分のセクシュアリティの表出を強制させてはならない

・生徒自身のもつセクシュアリティを、生徒自身の意志に関係なく強制的に発表させたり、発表せざるを得ない状況をつくったりしない。このワークショップは、生徒同士の発表や自身のセクシュアリティの共有の場ではないということを教員はもちろん、生徒も認識をしなければならない。言いたくないことは言わなくてもよいという環境をつくる。また、他人のセクシュアリティについて本人の意志に関係なく勝手に公言するような行為は絶対にあってはならない。

参考 [Relationships and sex education \(RSE\) and health education - GOV.UK](https://gov.uk/relationships-and-sex-education)

参考にできる教材

『Ally Teacher's Tool Kit』

<https://rebitlgbt.org/project/kyozai/teacher/>

## 参考

- [1] [ワンフェスユース | ワン・ワールド・フェスティバル for Youth～私たちが描く持続可能な社会の未来図～ \(owf-youth.com\)](https://owf-youth.com)
- [2] 『日本放送協会 (2021) 』
- [3] 風間隆・他 (2018) .『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』.法律文化社
- [4] [SOGI ハラスメントとは 具体例や遭遇したときの対応 - 記事 | NHK ハートネット](#)
- [5] [連合 | 「LGBT」「SOGI \(性的指向・性自認\) 」ってなに? \(jtuc-rengo.or.jp\)](#)
- [6] [世界の同性婚 | EMA 日本 \(emajapan.org\)](#)
- [7] [なくそう! SOGI ハラ \(sogihara.com\)](#)
- [8] [日本のパートナーシップ制度 | 結婚の自由をすべての人に - Marriage for All Japan -](#)
- [9] [Relationships and sex education \(RSE\) and health education - GOV.UK](#)
- [10] [教職員研修版「Ally Teacher's Tool Kit」 | 認定 NPO 法人 ReBit \(rebitlgbt.org\)](#)

以上

---

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2022 高校生実行委員会 ユース提言セッション

この活動は、2022 年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて実施しました。

Copyright © 2023 One World Festival for Youth 2022 High School Student Executive Committee. All rights reserved.